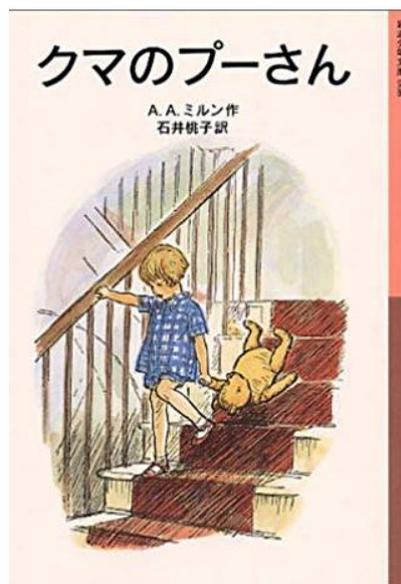


～読んでみない？こんな本～

くまのプーさん プー横丁にたった家

A. A. ミルン作 石井桃子訳 岩波書店



“そうら、クマくんが、2階からおりてきますよ。”

こんなふうに始まるこの本は、クリストファー・ロビンとプーとそれから百町森に住む仲間たちのお話がたくさん入っていて、訳者の石井氏がこの本の原書と出合った時に、たちまちそのおもしろさに惹かれ夢中で読み始めてしまったといういきさつがあります。くまのプーは、友達おもいで、詩を作るのが好きで、“なにかちょっとひと口つまむ時間”でいることが多くて、何をするにも一生懸命だけれどもどこか抜けている、なんとも憎めないすてきなクマさんです。また、プーの作る詩はなかなか楽しくて、プー横丁にイーヨーの家がたつお話に出てくる「外あるきの歌」なども一度口ずさむと忘れられないくらい調子の良いものです。百町森でおきる出来事はなんともふざけているようなことも多いのですが、読んでみると最後は百町森の住人たちのあたたかさや、やさしい気持ちをより身近に感じることができると思います。

この本の翻訳をされた石井桃子氏は、平成20年4月に101歳の生涯を閉じられました。編集者として岩波少年文庫を刊行し、翻訳家として多くの優れた児童書を訳し、作家として児童書から一般書まで執筆し、子どもの読書環境においても大きな功績を残されました。